

カナダの視点

Jamie.Baxter

背景

本稿は、2019 年の国際風力エネルギー協会 (IEA) Wind Task28「風力エネルギープロジェクトの社会的受容性」の支援活動とその成果、特にカナダ代表が直接関与したものの要約である。

活動内容

Task 会議—2019 年 3 月

Task28 会議の意義は、対面参加の機会の提供、参加者間のシナジー強化、そして自国での風力エネルギー開発関連作業の共有にあった。ミーティングで用いられた主要なメカニズムは、1) 各国の最新状況報告、2) 筆者らの研究サマリー報告、3) 進行中のプロジェクトに関する形式ばらない会話であった。また、会議の重要な焦点が 2 点あった。1 点目は、洋上開発である。洋上風力発電は、社会的受容性の観点から独自の課題があるが、この分野で重要な進歩を遂げている国がいくつか存在する。次に、ローレンス・バークレー国立研究所 (Lawrence Berkeley National Laboratory) 主導の国際調査 (<https://emp.lbl.gov/projects/wind-neighbor-survey>) の詳細と重要な洞察のレビューである。この調査では、風力発電に対しては一般的に非常に肯定的、または中立的であることが明らかになっているが、「近隣住民の態度、景観や地域社会における風力タービンの適合性に関する認識、風力発電プロジェクトが資産価値に与える影響に関する認識には複雑な関係がある」とも指摘されている。この調査は、カナダでの今後の研究の基礎となり、米国やドイツの調査結果をカナダのものと同様に直接比較することを可能にする。

MISTRAL サマースクール—2019 年 9 月

Task28 の参加者はほぼすべて、2019 年 9 月に開催された MISTRAL サマースクールに参加した。ここでは、職員が地元の関係者と交流し、風力エネルギー開発の理論と実践について話し合う機会が設けられた。MISTRAL プロジェクトは、EU の資金援助を受け、再生可能エネルギーインフラの展開が引き起こす社会的受容性の問題の複雑さを評価し、研究機関、政府機関、産業界など様々な背景の、革新的な解決策を提案できる新世代の研究者を育成することを目的としている。風力エネルギーの社会的側面を研究する多くの著名な研究者が、開発者、政府や非政府組織の代表者とともに、それぞれの考えを発表した。EU を拠点とする MISTRAL は、カナダの研究者や専門家を育成するためのモデルとなる可能性がある。

エネルギー転換の歴史的コンテクス

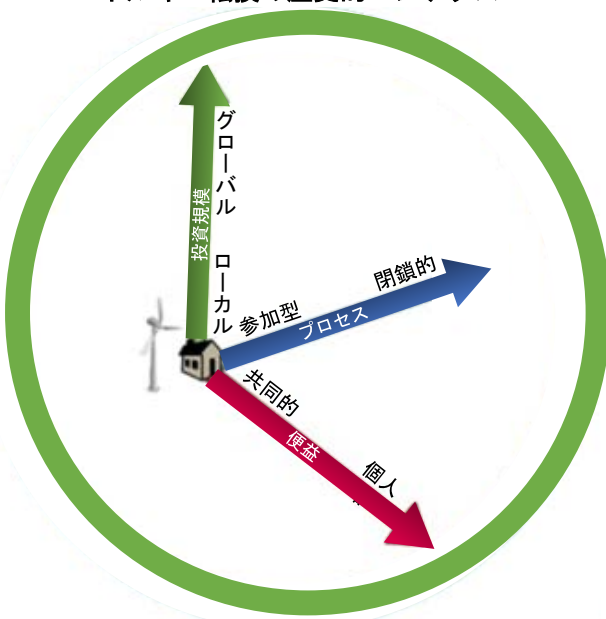


図 1: コミュニティ型再生可能エネルギー開発の概念的側面 (Walker and Devine-Wright, 2008 より引用)-(Baxter et al.として雑誌掲載予定)

タスク会議—2019 年 12 月

Task28 の 3 年間のサイクルが終わりに近づき、グループは 12 月初旬に会議を開催して主要な活動と成果をまとめる。この報告書は、来年公開される予定である。

成果:

3.1 コミュニティ型風力エネルギーの方針説明書

今春の Task28 会議の具体的な成果に、「コミュニティ型風力エネルギーに関する経験的知見の評価: 規模と歴史的背景の重要性」というタイトルの学術的な評価論文の作成のために寄稿者を決定したことがある。筆者が主執筆者、Task28 のメンバーであるギャラン・エリス (Geraint Ellis) とパトリック・ディバイン・ライト (Patrick Devine-Wright) が共著者となる。この論文は、再生可能エネルギー政策分野の先進ジャーナルである「Energy Research and Social Science.」により 2020 年 1 月に受理された。論文の要旨は以下の通り。

「コミュニティ型風力エネルギープロジェクトと社会的受容性の間には明確な正の関係があるが、詳細な理由には経験的・概念的な曖昧さが残る。本論文ではこの分野の基礎的研究を再度掘り起こし、2010 年から 2018 年までの実証的なケーススタディ (n=15) に焦点を当て、最近の研究が既存の枠組みとどのように関与しているかを調査する。多くの実

証研究社は、Walker と Devine-Wright(2008)が定義した 2 種類の鍵となる次元、すなわち過程と結果を引用しており、これらは手続き上の公正と分配の公正に様々な形で関与している。しかし、『コミュニティ』の概念化は非常にあいまいで流動的であるため、コミュニティ型再生可能エネルギー政策や位置づけの実践が、現地コミュニティの受容性には不十分であることは驚くにはあたらない。本論文は、様々な風力エネルギープロジェクトへの投資規模と、エネルギー転換の地域的・歴史的な背景の解析により、Walker と Devine-Wright が唱えるコミュニティ型風力エネルギー関連の枠組みを明確にして、政策、開発者の実践、将来の実証研究に役立つ重要な概念を提供することを目指す。」

本論文に掲載している 2 種類の図は、2008 年の枠組みから再概念化された枠組みへの変化を表す。その過程で、「結果」の次元は「利益」として改良され、地元の社会的受容性がより高いプロジェクト策定にこの枠組みを使用することが推奨されている。すなわち、現地住民参加型の開発プロセス、恩恵の大部分が現地に還元されること、投資家が現地周辺にいることなど、高レベルで現地住民が関与するプロジェクトである。

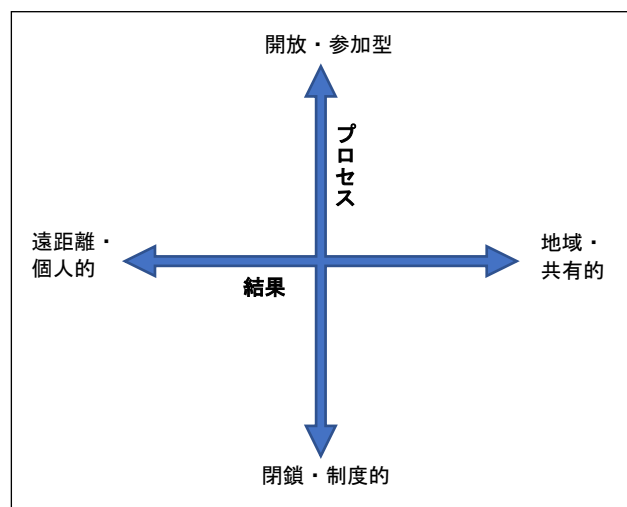


図 2: 現地コミュニティの風力エネルギー受容に重要な次元の再概念化: 利点、プロセス、投資規模

3.2 新たな国際協力

Task28 会議、および 3.1 節で論じたコミュニティ型風力エネルギーの共同研究は、英国(Patrick Devine-Wright)、ドイツ(Jan Hildebrand)、カナダ(Jamie Baxter)による新たな国際共同研究につながっている。このプロジェクトは「風力エネルギーの利益: 地域の分配の公正と社会的受容性に関する事例の国際比較研究」と題され、風力エネルギープロジェクトのために利益がどのように分配され、どのような影響がステークホルダーに与えられるかを理解するために、平行かつ混合した手法によるケーススタディを提供している。この研究では、インタビュー、フォーカスグループ、調査の手法が用いられる。論文は、ドイツ研究振興協会(Deutsche Forschungsgemeinschaft)、英国の経済社会研究会議(Social Research Council)、カナダの社会・人文科学研究会議(Social Sciences and Humanities Research Council)に共同申請された。また、カナダの天然資源省(Natural Resources Canada)とカナダ風力エネルギー協会(Canadian Wind Energy Association)がこの計画の推薦状を作成した。審査は 2 段階に分かれている。来年早々には、申請が受理されたか否かが判明する見込みである。

3.3 コミュニティ型風力研究 MOCWE(SSHRC)の意味

関係者によるコミュニティ型風力エネルギーの定義、またコミュニティ型風力エネルギーの様々なモデルの属性に関する 5 年計画の研究の 3 年目が終了しようとしている。この研究では、カナダのオンタリオ州(先住民族のコミュニティを含む)とノバスコシア州、そして北アイルランドおよびアイルランドで同時に事例の研究を推進している。インタビューを基盤にした実地調査はほぼ完了しており、2020 年冬にはアンケート調査を行う予定である。本プロジェクトでは、前述の方針説明書内で提起されたアイデアを直接調査・検証するための実証証拠を得ることで、風力エネルギーの社会的受容性を検討する。

問い合わせ: jamie.baxter@uwo.ca

本翻訳書は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)「風力発電等技術研究開発/風力発電高度実用化研究開発/風車運用高度化技術研究開発」事業の一環として、IEA Wind 国内委員会の承認のもと作成されたものです。翻訳監修:名古屋大学 丸山康司 教授